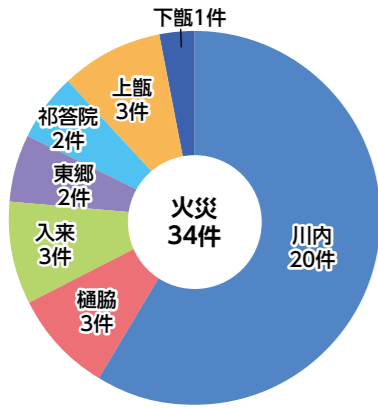


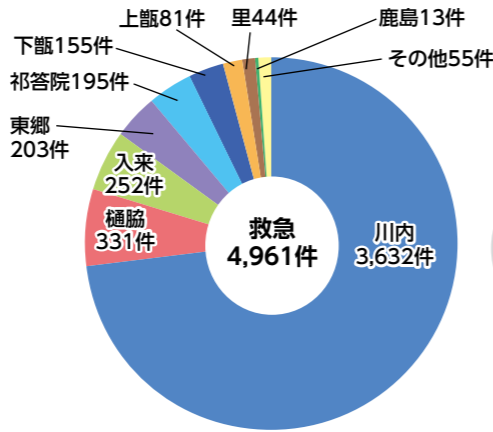


地域別
令和5年

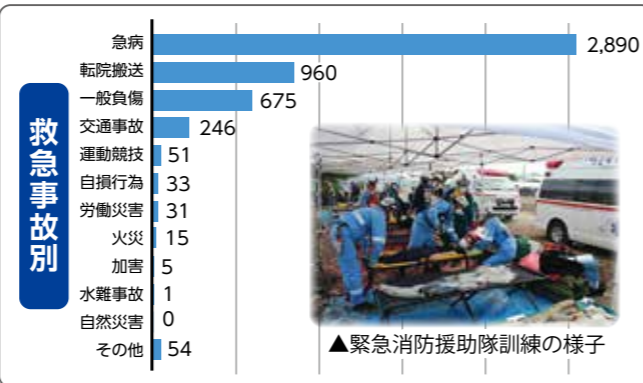
火災・救急統計



前年比
7件減



前年比
294件増



火災は令和4年より7件減の34件で、おおよそ10日に1件の割合で発生しました。火災種別は建物火災14件、林野火災2件、船舶火災2件、その他火災16件で、出火原因は上のグラフのとおりとなっており、「たき火」が原因の火災が多くなっています。たき火などの焼却行為は農作業に伴う軽微なものを除き、**原則禁止**されています。また、焼却行為に係る消防署への届出は、火災の煙と間違わないようにするためのもので、焼却について許可す

るものではありません。

救急件数は令和4年より294件増の4,961件でした。1日に約13.5件の割合で発生したことになります。なお、搬送人員は4,342人で、令和4年より199人の増となりました。

大切な命を守るため、救急車の適正利用をお願いします。

消防車の紹介「支援車I型」



支援車I型は平成22年に消防庁から本市に配備された、大規模災害時に支援活動を行うための消防車両です。

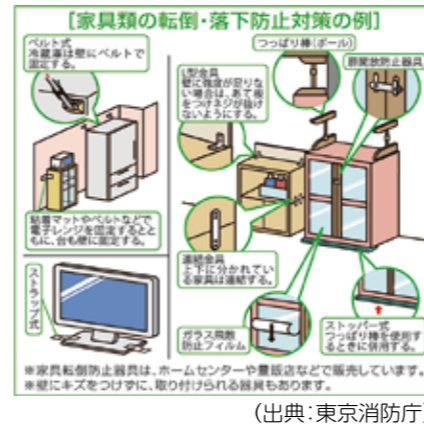
地震災害などの大規模、長期化する災害現場に派遣された消防職員が、食事や睡眠、会議などを行う場を確保することができます。これまでに、東日本大震災や熊本地震などで支援を行いました。活動の際は、車両が拡幅し、車内に大型空間を形成することができる特殊車両です。

複合的に発生する災害
地震による災害は、揺れによる建物などの倒壊だけに留まらない場合が多くあります。本年1月に発生した能登半島地震でも、津波や火災、土砂崩れ、液状化現象など複数の災害が発生しています。

迅速に避難するために
災害時に、けが防止や避難に支障がないよう、家具類の配置を見直し、日頃から高いところに物を置かないよう気を付けましょう。また、家具類の転倒防止のために器具を使用して固定するなど対策をしましょう。



▲令和6年能登半島地震について市ホームページ



▲防災チラシ「災害に備えましょう」

もう一度、みんなで確認を
災害が発生した時に備えて、家族や友人、自治会などで指定避難所の場所とそこまでの経路、外出中に帰宅困難になった場合の安否確認方法や集合場所などをあらかじめ話し合っておきましょう。

また、出水期だけでなく、日頃から防災マップや防災チラシ「災害に備えましょう」を活用して、浸水想定区域や土砂災害警戒区域などについても確認するようにしましょう。

問合せ先／防災安全課
防災安全G(内線4922)



VOL.29
防災トピックス

あらゆる災害を想定して、**みんなで再確認しよう**

このコーナーでは、防災に関する備えや避難時の注意など、日頃から災害に備えるための情報をスポットで発信していきます。

市長と振り返る
薩摩川内市誕生20周年

vol.1



このコーナーは薩摩川内市誕生20周年を迎え、川薩地区法定合併協議会事務局長として市誕生をけん引した田中市長だからこそ話せる当時のエピソードなど、これまでを振り返りながら、記念事業の見どころなどについて連載していきます。

市町村合併に業務として携わることになったときは、どのような気持ちでしたか。

市長 市町村合併の話聞いた当時は、川内市役所都市計画課の課長でした。大変な仕事が始まるなど他人事で、まさか私が事務局長を任されるとは想定外でした。しかし、過去に10年間広域行政を担当していたこともあり、8町村には知り合いも多かったので、あまり抵抗はなかったですね。

当時を振り返り、印象深い出来事などを教えてください。

市長 合併とは、自治体刷新、革命です。県内初ということで、先例がないので先頭走者の孤独、裏を返せば新しさを作り上げていくやりがいがありました。9市町村長、9議会の全合意が必要であるため心配もありましたが、悩んでいる暇はなかったです。新市誕生の平成16

締め切り厳守



問合せ先
本庁秘書広報課
企画総務・広報広報G
(内線 4122)

今回は、市町村合併の先頭走者として、苦勞しながらも歴史に残ることを任されたやりがいを話してくれた田中市長。次回は、薩摩川内市への思いや、いよいよスタートする20周年記念事業の見どころなどに迫ります。

同僚たちとの思い出はありますか。

市長 合併業務は、4人でスタートし、最終的には102人の体制になりました。広いフロアに集まって仕事をしていたので、ハンドマイクを使って毎日の朝礼。休む間もない大変なプロジェクトだったけれど、振り返れば充実した楽しい毎日でした。

年10月12日は絶対にずらすことができないので、合言葉は**締め切り厳守**でした。